

視覚障がいの理解② 「点字」を通じた学習

【ねらい】

- ① 点字体験を通して、視覚障がいに対する理解へつなげる
- ② 当事者からの話を聞くことで、児童・生徒が障がい者と会ったときに何ができるのか、心遣いや、行動に気づく

単元の目安：2～3 単元

対象学年：小学校3年生～中学校3年生

対象人数：10～100名程度

使用教材：点字器、アイマスク、サインガイド、ユニバーサルデザイングッズ ほか

実施時期：通年

講師：点訳グループ 視覚障がい者 特別支援学校教諭 ほか



点字についての講義



自分の名前などを点字で打つ体験



点字を用いた絵本や道具のご紹介

【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 視覚障がいに関する調べ学習 ◆ 身近にある点字を使った道具の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 視覚障がいによって、日常生活においてどのような不便さがあるのかを考える ◆ 身近にある点字を探してみる <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターボタン、自販機 ほか 	<p>各学校で実施していただきます</p> <p>事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります</p> <p>(時間の取れない場合はご相談ください)</p>
当日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当事者の講話 ◆ 点字についての講義 ◆ 点字体験 ◆ (発展学習) 「ユニバーサルデザイン」の考え方の講義 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 視覚障がい者の普段の生活について学ぶ ◆ 点字の役割、使用する道具、読み方、打ち方などについて学ぶ ◆ 自分の名前などを実際に点字で打つ 自分で打った点字が正しくできているか、当事者に読んでいただく ◆ ユニバーサルデザインを知ること、様々な工夫により障がいがあっても普通のくらしができることを学ぶ 	<p>事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします</p> <p>グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います</p>
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プログラム終了後の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習を通しての振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・発表(会) ・感想文 ・新聞作り ほか 	<p>対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします</p>

プログラム後にいただいたご意見

プログラムの中で障がい者スポーツに興味を持った児童が多く、事後学習として障害者スポーツセンターへ行きました。(小学校教諭)

【ねらい】

- ① 障がいや病気などについて正しい知識を得る
- ② 障がい者が、どのような場面で不便に感じているか知る（車いす体験）
- ③ 学習を通して自分たちにできること、行動するきっかけ作りをする

単元の目安：1～3 単元

対象学年：小学校3年生～中学校3年生

対象人数：10～100名程度

実施場所：体育館 ほか

使用教材：車いす、移動する際のバリア（段差等に利用できるもの、ロイター板など）

実施時期：通年

講師：肢体不自由者当事者団体など



当事者の講話



当事者との質疑応答



車いす体験（押す側・乗る側両方を体験）

【プログラムの大まかな流れ】

	内容	詳細	備考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 身近な場所でのバリアの調査 ◆ 肢体不自由について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校や地域の中でのバリアを考える <ul style="list-style-type: none"> ・車いすを使うときに支障がでる段差など ◆ 車いすを使うことになるのはどのような原因があるか考える <ul style="list-style-type: none"> ・病気や障がいだけでなく、怪我などの理由もあることを知り、身近なことであると気づく 	<p>各学校で実施していただきます</p> <p>事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)</p>
当日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当事者の講話 ◆ 疑似体験 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 肢体不自由者がどのような日常生活を送っているか、普段どのようなことで手助けが必要かを知る ◆ 事前学習や体験を通じて生じた疑問を当事者に伺う ◆ 車いす体験 <ul style="list-style-type: none"> ・まず自分の足で歩き、次に車いすでコースを回る ・車いすを押す側、乗る側、それぞれの場면을体験する ・自分の足で歩いたときに気にならない段差なども、車いすに乗ると大きなバリアとして感じられる 	<p>事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします</p> <p>グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います</p>
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プログラム終了後の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習を通しての振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・発表（会） ・感想文 ・新聞作り ほか 	<p>対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします</p>

プログラム後にいただいたご意見

体の不自由な人や困っている人を見かけたら積極的に声を掛けていこうと思います。(小学3年生)

補助犬の理解

障がいの者の支援の実際を「補助犬」を例に学習

【ねらい】

- ① 身体の不自由な人のために働く補助犬の種類や役割を知る
- ② 児童・生徒が補助犬と暮らす人や障がい者に出会った際にどのような支援ができるかを考え、行動するきっかけ作りを行う

単元の目安：2 単元～

対象学年：小学校 3 年生～中学校 3 年生

対象人数：10 名程度～100 名

実施場所：教室、体育館 ほか

使用教材：補助犬

実施時期：通年

講師：（公財）日本補助犬協会 補助犬関係団体 ほか



聴導犬

講話、質疑応答



盲導犬



補助犬による支援のデモンストレーション



補助犬への指示だし

【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 補助犬に関する調べ学習 ◆ 地域の補助犬のマークを調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 視覚障がい者がどのような場面で困っているか、また、盲導犬、聴導犬、介助犬それぞれがどのような役割を担っているかを調べる ◆ 地域のどのような場所に補助犬のマークがあるかを調べる <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン、公共施設など 	事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当事者の講話 ◆ 補助犬に関する講話 ◆ 補助犬のデモンストレーション ◆ 体験 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 補助犬の役割、利用する人、関わり方について学ぶ ◆ デモンストレーションを通じ、各種補助犬による支援を知る ◆ 実際に補助犬への指示などを体験 まちで補助犬を見かけたときの接し方について学ぶ 	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います 犬が苦手な児童・生徒には配慮いたします
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プログラム終了後の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習を通しての振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・発表（会） ・感想文 ・新聞作り ほか 	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

プログラム後にいただいたご意見

補助犬を連れている人や、補助犬の働きがどんなものかわかって良かったです（小学3年生）

【ねらい】

- ① 地域で暮らす人のことを知る
- ② 困った時に相談にのってくれる民生委員・児童委員について知る
- ③ 地域の課題に対して、自分たちに何ができるかを知る

単元の目安：2 単元～

対象学年：小学校 3 年生～中学校 3 年生

対象人数：10 名程度～100 名

実施場所：教室、多目的室、体育館 ほか

使用教材：ユニバーサルデザイングッズ、体験教材 ほか

実施時期：通年（担当いただく民生委員・児童委員と調整）

講師：民生委員・児童委員 ほか



講話、質疑応答



協力してグループ内の意見を発表



ユニバーサルデザインに触れてみる

【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	◆ 調べ学習	◆ 地域の人々が安心して暮らすために、どのような「支え」が必要か、家族や周囲の大人に聞いてみる ・高齢者や障がい者、妊産婦が安心して暮らすために、自分たちは何ができるか	事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	◆ ユニバーサルデザイン学習 ◆ 民生委員・児童委員の講話 ◆ グループワーク	◆ ユニバーサルデザイングッズ体験 ・シャンプー、リンスボトル、サッカーボール、醤油さし、歯磨き粉等、身近なユニバーサルデザインの製品を触ってみる ◆ 民生委員・児童委員の活動紹介 ◆ 地域の課題についてみんなで考えよう ・みんなが住みやすいまちにするために自分たちは何ができるか	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います
事後学習	◆ プログラム終了後の取り組み	◆ 学習を通しての振り返り ・発表（会） ・感想文 ・新聞作り ほか ◆ 実践 ・生活の中で実践する	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

プログラム後にいただいたご意見

民生委員・児童委員がいつからの活動なのかもっと知りたい（小学5年生）

ユニバーサルデザインで高齢者や障がい者のことが少しわかってきた（小学5年生）